

# 千綿っ子だより

ちからを合わせて  
わらい声あふれる  
たのしい学校



## 小さな平和をつくる人に

またこの日がやってきました。79回目の「県民祈りの日」です。長崎に生まれ育つ私は、小さい時から、8月9日を特別な日として平和の勉強を重ねています。きっと皆さんもそうだと思います。

小学生の時は、毎年、語り部の方を学校にお迎えして、原爆の被害の様子をお聞きしました。また、いくつものパネルが体育館に掲示され、それらを見ながら戦争の恐ろしさや、人々の苦しみや努力、平和な暮らしなどについて考えました。そういえば、夏休みの宿題として学校から配布された「夏休みの友」には、必ず戦争のお話が掲載されていたように思います。「かわいそうなぞう」の話は、いまでも印象に残っています。

さて、私の祖父は、戦争体験者で満州にわたったことがあると聞いていましたので、小学生のころ、祖父に戦争の時の様子を尋ねたことがありました。すると、屋根裏からごそごそと何かをもって私に見せてくれました。それは、穴がいくつもあいた日本の国旗と、数枚の写真でした。祖父は、私にそれらを見せながら、写真に写った自分の姿を指さし、「地獄のようだった・・・」とつぶやきました。

戦争を身近に感じる、あまりにも生々しいものだったので、何とも言えない怖さを感じたことだけは私の記憶に残っていますが、祖父は私に何を語ったか詳しく思い出すことができません。語り部の方も高齢となり、当時の様子や平和にする思いを直接お聞きすることが難しくなってきた現在、大人として、しっかり学んだことを子供たちに語り伝えていく役割があるのだと改めて感じています。

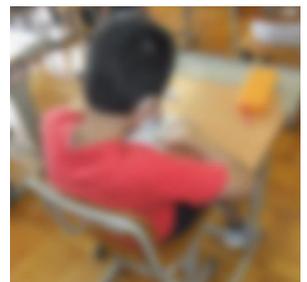
今日の平和集会で私は子供たちに次のようなメッセージを送りました。

### ～小さな平和をつくる人に～

今の私たちの平和な生活は、小さな平和が積み重なっています。この小さな平和は、一人一人が「願う」のではなく「つくる」のです。

だれとでもなかよくする 小さな平和  
すなおにごめんなさいという 小さな平和  
まわりの人にありがとうをとどける 小さな平和  
みんなを笑顔にする 小さな平和  
困っている人にだいじょうぶ？と声をかける 小さな平和

小さな平和を積み重ねると、いつまでも続く大きな平和ができます。千綿小は、「小さな平和」から「大きな平和」をつくり出す学校でなければなりません。



平和への願いを書き、縦割り班で折り鶴を折りました！